

Press Release

2023.8.29

アダム・カ ril、ベイレイ・スワイツァー、アントン・ヴィドクル、羽永光利、他 「ASAKUSA-YOKOSUKA」

2023年9月16日(土) - 10月8日(日) 11:00-19:00 月火祝 休廊

タリオンギャラリーでは、「ASAKUSA-YOKOSUKA」展を開催いたします。是非ともご覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

遙か先の未来。軌道を周回する謎の施設。制度的暴力や戦争など歴史の代償として奪われた命が、ついに「復活」によって償われる！カタルーニャの無政府主義者、植民地時代の農婦、神風特攻隊員、無名の殺し屋 AI に選ばれた死者たちは蘇り、激しい混乱のなか自身の肉体を回復していきます。彼らは文字通り「第二の生」に圧倒され、もはや死ぬこともできないことを悟り、その意味を問います。「この世界とは、単なる展示空間にすぎないのではないのか？」復活した兵士たちはバーカウンターに集い、終わりのない夜にグラスを傾け語り合います。

本展では、死者の視点を借りて、あるいはキュラトリアルの視座から、展覧会という場の条件を捉え直しリフレーミングを試みます。上記、アダム・カ ril、ベイレイ・スワイツァー、アントン・ヴィドクルによる映像作品《A I O U》(2020)のほか、同時期に ASAKUSA で開催される「呪殺祈祷僧団」展より羽永光利の写真作品、参照資料としてマクロビオティックの創始者桜沢如一(1893-1966)によるニューヨーク講演記録をあわせて展示いたします。



アダム・カ ril、ベイレイ・スワイツァー、アントン・ヴィドクル | A I O U | 2020 | Production still

アダム・カリル Adam Khalil

1988年、アメリカ合衆国・ミシガン州スーセントマリー生まれ。バードカレッジで学士号を取得。

映像作家、そしてアーティストとして美術館や国際的な映画祭に多数出品する。作品では、ユーモアや関係性、越権行為を通して、伝統的な民族誌やイメージ形成の形式を覆す試みを行う。サンダンス映画祭や、ウォーカー・アート・センター、リンカーン・センター、テート・モダン、HKW、デトロイト現代美術館、トロント・ビエンナーレ2019、ホイットニー・ビエンナーレ2019などで展示されている。

ベイレイ・スワイツァー Bayley Sweitzer

1989年アメリカ合衆国・マサチューセッツ州ボストン生まれ。ニューヨーク・ブルックリンを拠点に活動する映像作家、カメラ・アシスタント。アダム・カリルとも共作する。過激な政治的可能性を伝えるため、物語映画の形式を再利用する試みを続けている。世界中の美術機関や美術館で展示されており、リンカーン・センター、ウォーカー・アート・センター、テート・モダン、ベルリン国際映画祭、アンソロジー・フィルム・アーカイヴ、ブリュッセルのボザール、パシフィック・フィルム・アーカイヴ、ロサンゼルス郡立美術館、サンフランシスコのアザー・シネマなどで上映されている。

アントン・ヴィドクル Anton Vidokle

1965年モスクワ生まれ。ニューヨークとベルリンを拠点に活動する映像作家であり、アート界の教育・経済インフラに介入する複合的なプロジェクトを展開する。1998年に創刊されたオンラインジャーナル「e-flux」を創始し、哲学者や人類学者、理論家などを巻き込み、現在も学際的プラットフォームとして運営が続けられている。他にも、ベルリンのスーパー裏地にボリス・グロイスやマーサ・ロスラーらを迎えて行われた仮設アートカレッジ「ユナイテッドネイションズプラザ」(2006-7)や、アート関係者の時間とスキルを交換し、貨幣を代替するシステムを構築した「タイムバンク」プロジェクト(2010~)でも知られる。同プロジェクトはドクメンタ13にも出品された。近年の代表作に、広範な学術的資料や文学詩から構成された映像作品である《共産主義革命は太陽が原因だった》(2015)、《宇宙市民》(2021)などがある。

羽永光利 Mitsutoshi Hanaga

1933年東京生まれ。1999年没。芸術、政治、社会の交差領域で活動するフォトジャーナリストであり、1960年代から80年代までの前衛芸術と学生運動の熱心な支持者。羽永作品は、『朝日グラフ』(1970)や『LIFE』(1964)などの影響力のある雑誌に掲載されているほか、展覧会やパフォーマンスの歴史的に貴重なドキュメンテーションとして近年再び注目を集め、ポンピドゥーセンター(1983/パリ)、アジア文化センター(2015/光州)、テートモダン(2015/ロンドン)、国立近代美術館(2018/東京)などで展示されている。

—
本展覧会に関しまして貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸いです。掲載用写真の貸出、ご質問などございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

[展覧会概要]

展覧会名 ASAKUSA-YOKOSUKA
アーティスト アダム・カリル、ベイレイ・スワイツァー、
アントン・ヴィドクル、羽永光利、他
会期 2023年9月16日(土) - 10月8日(日) 11:00-19:00
定休日：月・火・祝日
会場 TALION GALLERY 東京都豊島区目白2-2-1 B1
企画 大坂紘一郎 (ASAKUSAディレクター)
上田剛史 (TALION GALLERY ディレクター)
協力 青山目黒

[関連展示]

ASAKUSA 『ダークエコロジー』 公害企業主祝殺祈祷僧団 (羽永光利)
会期 2023年9月29日(金) - 10月22日(日)
会場 ASAKUSA 東京都台東区西浅草1-6-16

[注意事項]

ご来場の際には、以下の点についてご協力をお願いしております。
最新の情報はギャラリーWebサイト taliongallery.com にてご確認ください。

- ・ 展示室内の密集を避けるため、入場制限を行う場合がございます。
- ・ 発熱、せき等の症状がある方はご来場をお控えください。
- ・ マスクの着用とカウンター設置の消毒液のご利用をお願いいたします。

[お問い合わせ]

TALION GALLERY 広報担当
Email: info@taliongallery.com Tel/Fax: 03-5927-9858
171-0037 東京都豊島区目白2-2-1 B1 URL: www.taliongallery.com